

平成30年度 第16回益田市子ども・子育て会議議事録

日 時：平成30年10月15日（月）午前9時30分～11時30分

場 所：益田市役所 3階 大会議室

出席者：

（委員） 田中会長、石橋副会長、山下委員、永見委員、小笠原委員、湊田委員、寺戸委員、  
豊田委員、高島委員

（事務局） 福祉環境部	斎藤推進監
子ども福祉課	尾土井課長、石田補佐、村上係長、都野守主任主事
子ども家庭支援課	山下課長補佐
子育て支援センター	斎藤所長、内田主幹
教育部	武内部長
学校教育課	石橋課長
社会教育課	松本課長補佐
福祉環境部美都分室	中島室長
福祉環境部匹見分室	藤本室長

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

（1）平成29年度益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について【資料1】

（2）第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について【資料2】

4. その他

（1）子育て世代包括支援センターの開設について

（2）子育て短期支援事業の実施について

（3）次回の会議開催について

■傍聴人について

○石田課長補佐

会議に先立ちまして、傍聴希望の方がいらっしゃいますので、受け入れ可能かどうかご意見お願いします。

○田中会長

石田課長補佐からお話がありましたが、みなさんいかがでしょうか。

○委員一同

承認

→傍聴人入室

■挨拶

○斎藤推進監

皆様おはようございます。健康子育て推進監の齋藤です。平素より福祉行政に対しましてご理解、ご協力をいただきお礼を申し上げます。

本日の議事については3点用意しております。

1点目は、「平成29年度益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について」です。前回いただいたご意見、ご質問等を踏まえて報告させていただき、最終の確認をしていただければと思います。

2点目は、「第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について」です。前回の計画は平成27年～平成31年の5年計画で、平成32年からの第2期の計画策定をしているところです。今年度はニーズ調査等色々なことをしておりますので、内容、スケジュールについてご説明させていただきたいと考えているところです。委員方々の様々な視点でのご意見をいただきまして、事業計画や取り組みに生かしていけたらと思いますのでよろしくお願い致します。

## ■欠席委員・事務局紹介

○欠席委員：山本委員、浅井委員

○事務局：石橋課長

## ■議事

○石田課長補佐

では、議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、会議規則第5条第1項の規定によりまして、田中会長へお願いしたいと思います。

○田中会長

早速、3つの議案に入っていきたいと思います。様々なご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## ■(1) 益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

○田中会長

前回の会議でも皆様からご意見をいただきまして、もう一度各課で検討をお願いした2点等についてそれぞれご説明をお願いします。

## □保幼小連携「41 ふるさと教育の推進」

○松本課長補佐

【資料1-1】の総括表について前回C評価をB評価へ修正しております。前回、ふるさと教育の推進について、ふるさと検定だけに特化した評価になっており、もっと幅広く評価すべきではないかというご意見をいただきました。事業番号39、40の関連で地域の体験活動等ふるさと教育を推進する活動が行われています。具体的な事例として、西益田の取り組みと保育園の地産地消の推進を追記し、評価をB評価に修正しました。資料の地産地消の「地消」が「池消」となっておりますので、訂正いたします。

○田中会長

ふるさと検定に特化することなく、中身のところで再度検討しB評価へ変更されましたが、何かご意見等ありますでしょうか。

○山下委員

前回のC評価は適切ではないのではという意見を出させていただきました。修正をしていただき、ありがとうございました。

○寺戸委員

小中学校としましても、年々ふるさと教育が充実していると感じております。そういった中で、この評価は妥当のように思えます。

○田中会長

ではB評価への変更でよろしいでしょうか。

○委員一同

承認

○田中会長

ではB評価をお願いします。

#### □「①病児・病後児保育事業」

○都野守主任主事

病児・病後児保育事業につきましては、修正がありましたので、委員の皆様はお配りした差し替えの文書をご覧ください。修正点は、平成29年度の②提供体制の確保数の実績を998から1200に変更した箇所です。これは確保数の考え方として、定員4名の施設で一月25日で1年間、開所したと計算して1200となります。実績につきましては、実際の開所日数ではなく、開所可能な体制をとっていた日数と考えることから、実績を1200に修正いたしました。次に評価についてですが、C評価からB評価へ修正いたしました。これは計画を下回る実績とはなっていますが、実績は計画の70%以上達成していることから、評価の修正をいたしました。そして、平成30年度以降の計画の見直しについてですが、すでに中間年の見直しを行っております。内容につきましては、平成30年度以降の計画は量の見込みについては、病児保育の対象児童が小学校6年生までとなることから、量の見込みの対象年齢を小学校6年生まで広げ、人口推計から計算いたしました。確保数については施設の定員が4から6名となったため、1800となりました。平成29年度の実績から考えると平成30年度以降は計画の数字に近づいていくと考えられるため、現行の計画で、実施していきたいと思っております。

○田中会長

C評価からB評価への変更についてですが、いかがでしょうか。

情報共有ということで一点質問です。小学6年生まで対象となりましたが利用者の実績としてはどうなのでしょう。

○都野守主任主事

9月の途中から利用の対象となりましたが、実際の利用はありません。

○田中会長

病児の受け入れの枠を広げることによって、本来必要とする乳児等のニーズに対応できなくなるのではないかと確認と情報共有でした。

○永見委員

どうしても目標に対する数値の達成度で評価をしておりますが、働き方をもっと考える必要があります。病気の子どもの面倒を見たいという保護者もいらっしゃるから、一概に利用数の数値が上がるから、良い評価というのはおかしい考え方だと思います。病気の子どもをたくさん預けたからよいという評価については、子ども子育てを根底に考えていけないといけません。評価の考え方については非常に難しく、よく考えなければならぬと思います。

○田中会長

評価については数値にとらわれることなく、中身についても今後念頭におきながら、評価をしていただきたいと思います。この評価についてご承認いただけますでしょうか。

○委員一同

承認

○田中会長

ありがとうございます。

#### □第 15 回開催の子ども・子育て会議における永見委員からご質問に対する回答

○石田課長補佐

第 15 回開催の子ども・子育て会議において、永見委員からご質問いただきました内容について、その場で回答しておりませんでしたので、この場をお借りして回答させていただきます。ご質問の事業については、第 15 回の開催資料の「資料 1-①」の「P6」の「事業番号 47」の「保育所・幼稚園への障がい児対応保育士・幼稚園教諭の配置」の項目で、第 15 回の会議の議事録「P6」のアンダーラインのある箇所となります。

内容としては、「グレーゾーンの子どもに対する人件費や増員は難しいと書いてあり、「B」評価となっているが、行政としてはどのような働きかけをしているか。また、予算要求はしているかなど、項目の進捗状況がわかるようにすることも大切である」旨のご質問であったと解しております。

このことについて、まず、「B」評価としている理由についてですが、障害の認定を受けた子どもに対する職員配置基準に基づく職員配置はされていますが、障害の認定までは受けていないが、同等に職員の対応が必要である子どもに対する職員配置に関する人的又は費用的な支援が実施できていないことから「B」評価としております。

人的な支援についてですが、全国的にも保育士や幼稚園教諭が不足している中であって、益田市としても例外なく不足している状況が続いております。通常の保育業務にあっても保育士が不足していることから、実際に、障がい児やグレーゾーンの児童を受け入れていても専任の担当者とすることが出来ない状況等も伺っております。

その解決に向けて、市として単独で保育士確保に向けた取り組みを実施してはおりませんが、島根県や県社協等が実施する職員確保に向けた事業への協力や周知を実施しているところです。参考となりますが、来月 11 月 22 日には、島根県人材センターの取り組みについて、協力する形で「保育所体験ツアー」を開催し、潜在保育士の掘り起しや保育補助員・保育支援員の確保に向けた事業を実施する予定となっております。

予算的な内容をご説明しますと、保育所等に支払っています「給付費」の中に「療育支援加算」という加算と「障がい児等保育対策事業補助金」というものがあります。

「療育支援加算」は、手帳等の交付の有無は関係せず、医師による診断書や巡回支援専門員等障がいに関する専門知見を有する者による意見の提出など、障害の事実が把握可能な資料をもって加算することができるものとなります。

療育支援加算については、職員の配置がされていれば支給の対象となり、現にこの加算の適用を受けている施設が市内の保育所等でも多数あります。

また、「益田市障がい児等保育対策事業」による補助金があり、補助対象施設は、保育所・認定こども園のみとなります。この補助金については、手帳等の交付または児童相談所の発達促進保育の判定を受けた児童のみが対象となり、併せて職員の配置も必要となります。

従いまして、市の予算的には、先程述べましたような一定の条件をクリアすることができている場合には、給付等を実施している状況となっております。

しかしながら、グレーゾーンである子どもに対する明確な指標等がなく、施設に入所してから、そういった児童であることがわかり、職員を急遽つけたり、その児童に対する支援のために職員を雇用する等の対応が必要な場合があります。

「人的な支援」や「指標の設定」等について、直ぐに対応することが難しい事項ではありますが、今後もどのような方法で支援を実施すべきか、検討してまいります。

引き続きまして、第15回の会議の議事録「P11」のアンダーラインのある箇所となります。内容としては、「事業評価の中で経費が絡むものについてはどういう風にされたか、どういう努力をしたかということも聞かせていただきたい」旨のご質問でした。

事業の評価については、「達成度」として「A・B・C・N」の評価を行い、「実施の状況」、「事業の結果・成果」、「問題点及び課題」、「次年度に向けた改善」について、担当課として評価した内容を記載しておりますが、「予算」や「事業費」等に係る内容やその経過等についての記載はありません。

それらの内容等については、今後、項目内に記載できるように修正する等、検討したいと思っております。

また、現在の評価では、誰が見てもわかりやすくするために「数値」による評価を主としておりますが、事業評価については「質の評価を実施するべきである」との助言もいただいておりますことから、来年度に向けて評価方法等についても再度検討させていただければと思います。

併せて、事業計画については多くの事業があることから、全ての事業の評価を実施することは非常に難しい状況です。

現在の数値による評価も継続しながら、改めて評価の方法については、評価値が継続して低く、改善されていない事業をピックアップして、質の評価も含めながら、もっと掘り下げた検証等を実施することも検討していければと考えております。

○田中会長

回答について、いかがでしょうか。評価について、改善をしていただけるとの内容があったと思いますが、この点を踏まえてご質問等ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。では「平成29年度益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価」の全体として、何かご意見はありますでしょうか。それでは「平成29年度益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価」についてご承認いただけますでしょうか。

○委員一同

承認

○田中会長

ありがとうございました。

## ■ (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について

○田中会長

計画策定に向けて、今年度のアンケートの内容をかためていきたいと思っておりますので、皆様からご意見をいただけたらと思います。担当課からご説明をお願いします。

○石田課長補佐

【資料2-1】 【資料2-2】 【資料2-3】

【資料2-4】 【資料2-5】 【資料2-6】 【資料2-7】の説明

○田中会長

何かご質問等ありましたらお願いします。

○山下委員

【資料2-6】のスケジュールで国の第2期の基本趣旨の改正を踏まえて、このニーズ調査になるということでしたが、第1期の事業計画の自己評価（【資料1-4】）でA評価44.3%、約半分くらいは予定通り実施しました。B評価は47.5%、C評価が4.9%ということですが、第1期の事業評価で課題になっている部分や達成された部分、市民の感想については調査の中に含まれないということでしょうか。

○石田課長補佐

【資料1-4】の評価の結果に基づく内容について、ニーズ調査の調査票に市としての評価を盛り込むことはできると思いますので、そういった部分も含めてできるかと思います。

○山下委員

課題となる部分について、あえて同じ質問をして、推移を比較検討することも可能でしょうか。

○石田課長補佐

課題となる部分についても比較検討を実施していきます。

○田中会長

今回のアンケート部分で第1期のところ、課題となるべきところを質問事項に入れていくとのことですね。

○石田課長補佐

そのような形で進めていこうと思います。

○田中会長

アンケートの案ができあがると思いますので、11月のところで、ご意見いただくということでもよろしいでしょうか。次にアンケートの中身について、このような調査をした方がよい等ご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、アンケートの前段部分は全国共通という風に理解してよろしいですね。P22、問29のところから益田市独自の質問事項で、課題を踏まえながら、アンケートを検討していくということで皆様からこういった内容を入れた方がいい等ありましたら、お願いしたいと思います。

○永見委員

アンケートの文言は変えることは可能ですか。

○石田課長補佐

可能です。

○永見委員

未就学児童用の調査票問20-2の回答欄が「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」となっているので、「2. 利用したいとは思わない」を「2. できれば利用したくない」という書き方にしてもらえませんか。

続いて問20-4の回答欄に「できれば自分の子どもの面倒を見たいので休んで対応する」を入れてもらえるともっと親の気持ちがかみ取れるのではないかと思います。

続いて問28-5について「育児休業からは実際にお子さんが何才の時に復帰しましたか」と聞いてありますが、育児休業は基本的に1才からではないかと思っておりますが、特別な理由があれば2才でなかったかと思いますが、どうなのでしょう。○才○ヶ月という書き方だと幅が広くなると思うのですがどうでしょうか。この回答欄をみるとたくさん取れるように思えますがいかがでしょうか。

P20、問28-7(2)の回答欄の内容が否定的なものばかりで、子どもともう少し一緒に過ごしたいという保護者の方もいらっしゃると思いますので設問の1つに「もう少し子どもを自分の手で育てたかったから」を入れることはできますか。

P22 問29について私の園では転勤されくる方が多く、益田での暮らしを尋ねると「住みよい町でした」ということがよく聞かれます。雑誌の中でも安全、安心の町として取り上げられたと思いますので、設問の中に「住みよい町ですか」等の子育てに限らずにそうしたことも聞けたらいいと思います。

第1回のニーズ調査のときは奨励費や児童館等についてありましたが、第2回のニーズ調査では、項目はなくなりますのでしょうか。念のために申しあげます

○田中会長

全体の設問と独自の設問でご意見をいただきましたが、全体の設問は前回とほぼ同じと考えてもよいですか、。

○石田課長補佐

項目的には同じになりますが前は書き方やレイアウトは市の職員が考えておりましたが、今回は民間企業の力を借りて調査票をつくっていきたいと思っておりますので、ベースは一緒だと思っていただけたらと思います。書き方等は若干変わるとお思いますので、調査票ができ次第、お配りしたいと思いますのでよろしくお願いします。

○田中会長

11月の会議の時には、事前に新しいアンケートが皆さんのところに配布され、確認できるという形になるのですね。永見委員のご指摘も踏まえて、修正していただき、全体については終わりたいと思います。独自の部分で町の住みやすさも把握したほうがいいというご意見もありましたが、その他にありますでしょうか。

私の方から、問30、31についてですが、書くのに頭を悩ませる設問だと思います。この設問は、計画のどこに反映させるのかを説明いただきたいと思います。

○永見委員

すみません、これは私が提案したと思います。これを書いてもらうのは子育てをしながら、うれしいこと感動したことをあらためて、自分に問い直してもらうための設問でした。できれば、うれしかったこと、感動したことを市民の方、子育て世代の方にも公表することで、再認識して見直すことになると思い、提案しました。

○石田課長補佐

以前に皆様にお配りした事業計画のP25に永見委員がおっしゃられた内容を載せております。保護者の意見をお聞かせいただいて、掲載しておりますので、ご一読していただければと思います。

○田中会長

今日は益田市版の質問事項をかためておいていただく必要があるということですね。

○石田課長補佐

ある程度意見をいただきまして、またすぐに出なければ事務局へ電話でも構いませんので、計画策定までにご意見をいただけたらと思います。

○湓田委員

さきほどの永見委員の意見とは反対の内容になりますが、逆に子育てする中で、辛かったことを書く欄があればと思います。実際、自分も子育てをしていくうちに怒り方とか疑問に思うことがあって、保護者も不安だと思います。子育て中につらかったことを書く欄を就学前児童用、小学生用の調査票に入れてみたらどうかと思います。

○永見委員

私も賛成いたします。

○田中委員

小笠原委員はいかがでしょうか。

○小笠原委員

アンケートについては特に何もありませんが、気になるのが【資料2-5】のスケジュールについて、ニーズ調査を行い、結果を受けて計画を策定するというので、平成31年度以降動いていくと思います。幼稚園の保護者をしておりますが、小学校の保護者もしております。今、益田市内の児童クラブの問題がいろいろあると思います。調査票の中にも児童クラブについての質

問事項があります。これをうけて、児童クラブの対応も始まっていくと思いますが、計画策定をみるかぎり、平成31年度の段階では具体的な対応が始まらないのかなという心配をしております。先日の新聞でも来年度の児童クラブのあり方が未定とありましたので、児童クラブの問題に対して、この計画策定の流れで間に合うのかという心配があります。

○尾土井課長

児童クラブ関係について、今回提案いたしました内容は平成32年度からの第2期子ども・子育て支援事業計画に反映させる部分の調査票となっております。一方で実際には毎年クラブの開所はしておりますので、みなさまのご意見をいただきながら、平成31年度の開所に反映させていくことを考えているところです。本調査票の結果を反映するのは平成32年度以降の計画になると考えます。

○小笠原委員

近いうちに来年度の児童クラブをどうするかという回答が、どこかで聞かせていただけたらと思います。今回の会議は平成32年度以降の話なので、この場ではお聞きませんが、平成31年度の実態も早く知りたいという保護者からの意見としては以上です。

○山下委員

児童クラブも含めて、【資料1-4】にある第1期の積み残し課題があります。例えば「1. 地域における子育て支援への支援」の「②地域における子どもの居場所づくりの推進」は事業の8項目のうち、A評価（すべて実施）が1項目でB評価（50%以上）が7項目というところが目につきます。こういった地域における子どもの居場所づくりや多様な子育て支援サービスは第1期の課題として積み残しているとするならば、今回の第2期のニーズ調査の益田市版のところに、自由記述ではなく、前回の数値と比較ができるような、第1期の積み残した課題に対する独自アンケートの項目があってもよいと思います。

○田中会長

そういった項目は事務局で検討はいただけますか。

○石田課長補佐

比較等踏まえて、どうおこなったらよいか、ご意見をいただきながら進めていこうと思います。

○田中会長

益田市版のところで、第1期の課題の部分の踏まえて、質問事項を検討していただくということでもよろしいですね。ほかには。

○高島委員

先ほど児童クラブのことを話していただきましたが、山積している課題が多くあります。ニーズ調査にある時間や利用状況でどれだけ利用が増えていくのかとか結果はどうなることかと思えます。場所の確保もそうですが、利用可能教室へ、という流れになると思います。抱えている大きな課題は加配児童が増えていること、グレーゾーンの子どもの数が増えていること、そういう子どもを預かるなかで、個別のクールダウンをする部屋もなく、子どもたちを預かっている状況です。どこまでニーズ調査の結果が吸い上げられ、場所の確保や支援員の確保に繋がるのかと思えます。

家庭や地域の繋がりなど様々な環境の中で働かされている支援員がおります。その支援員、自らが働き方や雇用の考え方などを内部で相談しても解決に至らずに支援員の会へ相談されました。この問題は支援員だけではなく、預かる子どもたちにも大きく影響していると思います。11月からどのようにしていけばよいのか伺います。

○村上係長

高島委員がおっしゃられたクラブにお話をさせていただきました。クラブを開所している時間に支援員さんが時間で交代をされているという様子でした。子どもさんの落ち着きがないことで、やり方はどうなのだろうかと話されたので、1日を通して子どもさんを見られた方が子どもにと

って信頼関係を築きやすくなって、落ち着きが出てくるかもしれませんというお話をさせていただきました。こちらも業務委託をさせていただいており、受託先で雇用された職員さんなので、相談というかたちでお話をさせていただきました。11月からということですが、若い職員さんがやめたいとは聞いておりましたが、具体的に何月からは聞いておりませんでした。一方で、受託先は市の話聞いた後で職員さんを集めていただいて、今後の職員体制を職員同士で話していくとお聞きしております。その後どうなったかはお聞きしておりませんので、この場ではお答えできるものはないのですが、市としましては引き続きバックアップしていこうと思います。

#### ○高島委員

児童クラブに1日勤務される方を見つけるのが非常に難しく、子どもが減れば職員を減らされる体制もあって、1日勤務できない方を雇っている状態です。職員については、若い職員を残そうとしているが、自分の子どもの面倒を見ながら、他人の子どもを預かる状況で、同じ地区の人間同士でやりにくい部分があります。益田市に児童クラブができて27年が経ち、様々な課題がある中、同じ地区の人間を雇うとどんなことになるかも経験しております。そのため、ぜひ現場へ連れて行ってほしいということをお願いしましたが、なぜ私を児童クラブへ連れて行って欲しかったのかと思います。市に無理な要望をしようということではありません。支援員の会と共にもう少し良い形で進めていけたのではないかと思います。もし、児童クラブへ連れて行ってもらい、受託先と話をさせていただけたのならば、若い職員さんがやめることなく、地区で長く勤めていただける方向が見えていたので、とても残念に感じます。できれば、これから先、声をかけていただき、相談し合いながら、ともに進めていく方向でお願いできたらと思います。どこのクラブも、若い職員が入ってもやめられたりして、50～70代の職員が残っている状態です。これからもご協力いただけたらと思います。

#### ○豊田委員

実際、70代で支援員を務めるのは難しいと考えており、65才を定年として、新しい職員を雇うようにしています。なぜ若い人が支援員をしないかという労働条件です。労働条件をきちんとなししないと若い人が入ってきてくれません。特に、保険、賃金等を検討していただきたいと思います。あと、アンケート自体は実態調査ですね。実態調査だけではなく、市行政に対してこういうことをしてほしいというのを書く欄はP22問29の自由欄でなかなか書きづらいと思うので、～してほしい、のような具体的に書く欄の方が回答しやすいと思いますがいかかでしょうか。

#### ○山下委員

アンケートの作り方として、国の指針に基づいてアンケート調査を行います。たとえば、【資料2-2】P17あたりは利用した時間帯なども聞けるようになっていくわけで、状況に応じて具体的な希望は聞けるようにしていますが、別の文脈、視点から具体的な内容は益田市独自で聞いていくところだと思います。あくまでも全国の市町村で行う調査ですので、一定の手法に則って行っていくのがニーズ調査だと思います。【資料2-6】にあるように2019年度に1年かけて第2期計画作成期間となりまして、第1期の課題についての量の見込みが出てきて、保護者がどのくらい希望しているかニーズが出てきます。その後、解決方法はニーズ調査からは分からないわけです。児童クラブの問題についても、ニーズは分かっても解決方法は分かりませんし、専門職同士のネットワークもニーズ調査では分かりません。2019年は1年をかけて解決方法を話し合い、行政の中で検討し、またそれについて検討するという作業があると思います。その際にほかの市町村でうまくやっているところもあります。児童クラブ、公民館、放課後の教室が一体となっているところもあり、ニーズ調査から新たな課題がわかったときに、2019年は他の市町村の事例を基に検討していくようなそうした計画も今回お願いできたらと思います。県内のみならず、県外でうまくやっているところがあればどういったやり方なのか、という知見を子ども・子育て会議で提供できるような視察、調査の部分もあるということで、第2期の計画の作成のお願いをしたいと思います。

#### ○田中会長

ありがとうございます。そういった意見を踏まえて、行政の方で次年度検討していただけたらと思います。

○石橋副会長

アンケートで書く段階で書いてみようと思わせる意識づけを最初のところでださないとなかなか回答して下さらないと思います。前回の回答率はあまり良くなかったですね。

○石田課長補佐

61%です。

○石橋副会長

それをぜひ 70、80%を目指さないと、実際のニーズが出にくいのではないかと思います。1つの手法として、前回のアンケートに基づいて、これだけのことが改善され、こういう風に変わっていきまして、ということを実例として出して、それを反映するためにぜひご協力くださいという表記するのも考えられます。もう1つが5分程度で終わります等が書いてあると回収率が上がってくると思います。第1期のニーズ調査に基づいて今までやってきて、色々変わったところがあると思います。そここのところをしっかりとアピールして、市としてもきちんと反映していることをプラスして記載していただけたらと思います。

○田中会長

良い意見だと思います。5分は難しいかもしれませんが、アンケート全体についての意見としてよいと思います。寺戸委員お願いします。

○寺戸委員

先ほどの意見に関連して何ですが、最初のアンケートのお願いの文章を見ますと“「利用状況」や「今後の利用希望」などをお伺いし、必要となるサービスの量などを計画に反映させるために実施するものです。”とありますが最後の問30あたりは、何に反映されるかわからず、異質に感じるかもしれませんので、もう少し丁寧な説明等があればいいのではないかと思います。

○田中会長

ありがとうございます。全体のところで、回答率が上がる、回答したいと思える文面にしていただきたいなと思います。よろしくお願いします。質問項目につきましては、前回部分は残して、さらに豊田委員からありました、問29に関連した所、さらに支援について深く聞いてみるような質問内容に変更という形ということでしょうか。それとも付け加える形でしょうか。その点を踏まえて事務局は検討していただくことでよろしいでしょうか。その他ありますでしょうか。

問29に関連して「今、益田市の支援に満足しているか、それとも満足していないのか○、×というはっきりとわかる形で回答していただく方法も1つあるのかと思います。そこから足りない支援を掘り下げていく方法はどうかと思います。このままだと文面をかいていただかないと満足しているかどうか読み取れないと思うのですが、そのあたりを踏まえ、満足しているのかどうか物足りない部分があるかどうか一目でわかる回答欄があってもいいのかと思います。

○山下委員

こういったアンケートが実態についての報告のような形になってしまって、大きな意味での評価につながってなくて、無記名調査でそれをやると、結果が出たときに解釈の方法がなくなるということがあります。子育てについての自分の人生の不満を書けと言われても、何が原因で不満なのか文面からわからないことがあります。無記名調査の前には情動的なものが伴うような回答は結果にむすびつかないです。それで、あえて時間や利用状況を具体的に聞いていると思います。

○田中会長

わかりました。では、一旦事務局の方で、アンケートの案を作ってください、次回の会議の事前に皆様のお手元に届くようにしていただくということで進めていただきたいと思います。

### ■ (3) その他

- ・子育て世代包括支援センターの開設について
- ・子育て短期支援事業の実施について

#### ○斎藤推進監

【資料3】の説明

#### ○田中会長

ありがとうございました。ただいま新規事業につきまして、ご説明がありましたが、何かご質問がありましたら、お願いします。

#### ○豊田委員

この事業と児童相談所との関係はどうなっていますか。

#### ○斎藤推進監

これまで、ショートステイがない時は児童相談所をお願いすることが多かったのですが、児童相談所は虐待という視点での緊急性の高い児童のケースを基本にして一時的に預かるということで、益田市は随分児相さんにはそのあたりをご無理をいってお願いして対応していただいたところ。児相で一時的に預かることになるとそのケースをあまり長く見てはいただけなくて、どこかの施設に移ってもらうか、家庭に返すか、里親さんに預かっていただくなどしておりました。児童相談所だと学校に通えないのが原則ですが、ショートステイは校区外の子どもであっても学校へ送って下さったり、もちろん保育所の送り迎えをして下さったりなど、対応していただいており、非常に良い事業になっていると思います。

#### ○永見委員

包括支援センターは子育て支援センターが中心となっていると思っていましたが、今の子育て支援センターと、どのような関わりを持つのでしょうか。また、ファミリーホームで何人同時に受け入れられますか。

#### ○斎藤推進監

ファミリーホームについては、定員は6名です。

子育て世代包括支援センターと子育て支援センターについては、包括支援センターは妊娠期からの切れ目のない支援を提供するというところで、その中の非常に重要な関連施設として、子育て支援センターがある、という風に考えていただけたらいいと思います。気になるお母さんは窓口に直接来られるということが難しい場合があります。子育て支援センターなら日頃の遊びの場であったり、お母さん同士の情報共有などで関わりやすいといったところもあります。子育て支援センターでは障がい等の支援が必要な児童については、養護学校から発達関係の教室も開催していますので、教室を受講にきたり、遊びにきたりした方でも子育て支援センターで相談をされて、その情報はすべてこちらの子ども家庭支援課の包括支援センターに入ってまいりますし、健診等で心配があったりすると、子育て支援センターを勧め、センターの職員にも事前に話し、気を付けてみてあげてくださいと伝えたりすることもしています。子どものカルテ、記録が一体的に、色んな所で関わりをもつていただいたものも記録として、すべて一本化することで進めていくといったところです。

#### ○豊田委員

包括支援センターに専任職員はいますか。

#### ○斎藤推進監

先ほど申しましたが、包括支援センターを開設するにあたって、この4月には保健師を1名増員しております。コーディネーターという形で行います。今まではケース管理を、健診担当、地区担当等としていたのを一括で行い、心配のあるケースはコーディネーターが管理をして切れ目

のない支援ができるように采配を行っております。

○田中会長

よろしいでしょうか。それでは、次の会議の開催についてお願いします。

・ 次回の会議の開催について

○石田課長補佐

次回の開催につきましては、11月19日（月）午前中で開催を予定しております。  
またご出席いただき、ご意見がいただけたらと思います。

○田中会長

その他なにかありますか。

○永見委員

小笠原委員は県立高校の教諭ですが、本日は勤務ということでこの会議に出席しておりますが、益田市も同じような（PTA会長等の教諭が会議に出席するときに勤務扱い）体制で行うことはできないのでしょうか。

○小笠原委員

今は、職免という形で、休暇もとっておらず、報酬もお断りしており、通常の勤務という状態で出席しております。

○永見委員

益田市立小学校、中学校ですので、このことにつきまして何とかならないでしょうか。以上です。

○田中委員

ご検討をお願いします。

皆様、長時間にわたり、貴重なご意見ありがとうございました。今日は様々なお立場から、ご心配事、課題をお聞かせいただきました。私たちも色んな課題を踏まえて、頑張っておりますが、これからも行政と手を取り合って子ども・子育て支援計画をさらに充実していくよう努めてまいりますので、お願いいたします。本日はありがとうございました。